※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 1

【様式２】

エントリー学校名：

岡山県立瀬戸南高等学校

活動名：

”いつか”を”いつも”に変える　～リスク管理をみんなで考える～

解決すべき課題：

一般的に教育現場は”習慣”と”経験”で動く傾向がある。すなわち、経験値をベースとした学校経営や教育実践が行われ、判断の失敗の可能性を内包している。そこで、各部署からの意見を運営委員会（コアメンバー）で迅速に集約し、教職員のコンセンサスを形成してリスクに向き合い、組織として認識し、リスクに備える。

目標・方針：

（１）教育現場での問題点やヒヤリハットを共有し、その解決策を考えて実行する。
（２）形骸化している危機管理マニュアルを実情に即した形にカスタマイズし、共有する。
（３）最新かつ迅速な情報共有とフィードバックを実践する。

活動内容：

〇朝礼やランチミーティング・会議でスピーディーに情報の伝達・共有を行い、「今週の気づき」を発表しあったり、学期ごとのヒヤリハット事例を協議し合ったりする**（写真 1）**。
〇疾患を持った生徒の情報共有にとどまらず、緊急対応の検証実験や研修、教育法規とリンクさせた共通認識研修を行い、「情報のレベル」のズレを解消する。
〇各部署でのミーティングや運営委員会で、学習活動に潜んでいる課題・問題を提示・協議し、「事実」と「主観（意見）」を分けてマニュアル等を改定したり、ペーパーに落とし込んだりして「見える化」させる**（写真 2）**。
〇新型コロナウイルス感染症に関する問題点を整理し、その対策を協議したものを本校独自のガイドラインとして提示して共通認識を図った上で実践する**（写真３）**。

活動の成果：

〇熱中症指数計の追加購入と活用、防災グッズの備蓄が叶った**（写真 4・写真 5）**。
〇広大な敷地における構造的・物理的な緊急対応の検証や、日々の雑談レベルの情報共有、生徒理解会議・ケース会議・ケーススタディの研修会が意識・意欲的に行われるようになった**（写真 1）**。
〇「リスク・危機管理意識変化アンケート」調査の結果、危機管理意識がかなり醸成された**（グラフ１）**。
〇トップダウンとボトムアップの意思決定がうまく噛み合い、早い段階で情報が伝達・共有された**（図１）**。
〇教員のみならず、生徒の防災意識の高揚が図られ、生徒の SDGs をツールとしたプロジェクト活動や生徒会活動へと波及した**（写真６）**。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

〇学校全体として素早く情報や課題を共有し、「意志決定→アクション」のプロセスを高速化している。
〇みんなで考えたリスク管理のため、当事者意識をもって個々の教員が学校経営に携わり、「報連相」を恒常的なものとし、スピード感をもって効率的に対応できている。
〇教員のリスク管理における意識の変化が認められ、組織にもチームにもリスクマネジメントを実践できる人材が着実に育成できている。

写真１： 朝礼での情報共有

写真 2: ミーティングでの協議

写真３:新型コロナガイドライン

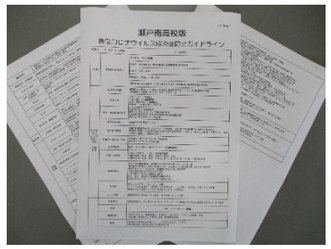
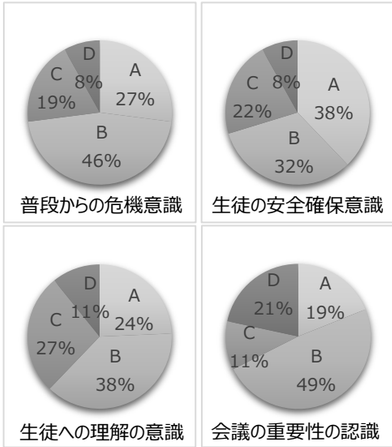


写真４： 熱中症指数計常備

写真５:防災グッズの備蓄

写真６:生徒の炊き出し訓練

グラフ１:教員の意識変化アンケート結果



A：非常に意識が高くなった
B：意識が高くなった
C：やや意識が高くなった
D：あまり変わらない

図 1:スピーディーなリスク管理の流れ

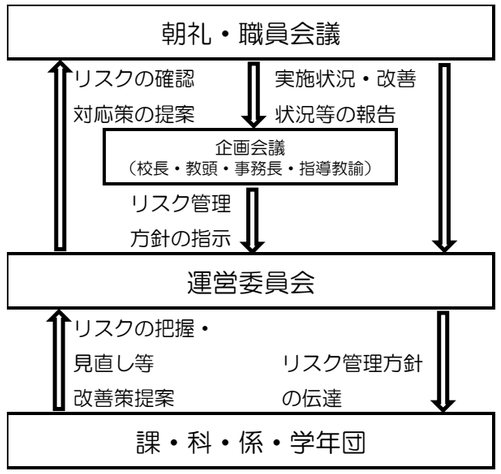
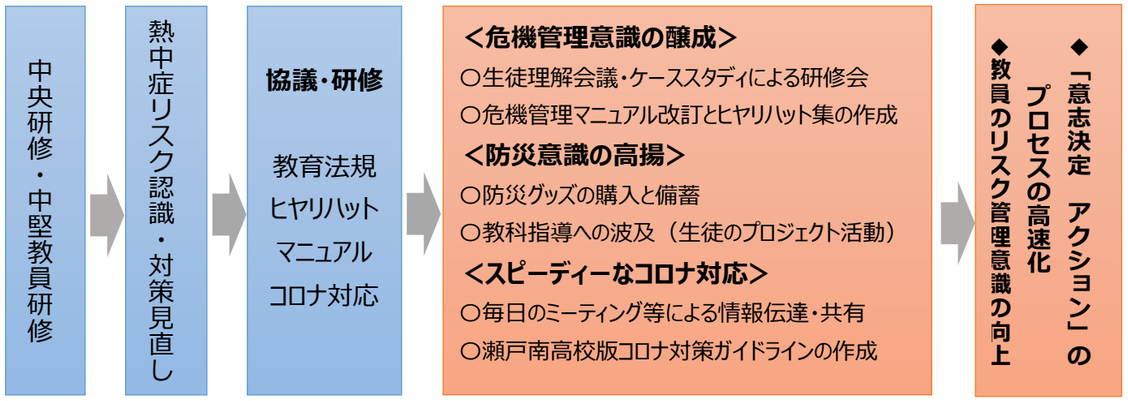



図２:学校の改良と改善